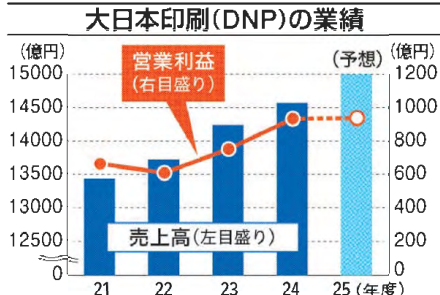


非連続の変革 未来創る

大日本印刷（DNP）が非連続の変革に挑む。2018年に社長に就任した北島義典がかねて推進し、従来の受注型ではなくDNP自身が主体的に価値を生み出す「第3の創業」を一層加速するため。カギを握るのは約150年前の創業時から同社に根付く挑戦のDNA。この変革の根幹を土台に、過去から現在、現在から未来へとバトンをつなぐ。

永続的に成長

挑戦する企業



大日本印刷

1

「挑戦の風土を一層発展させ、永続的に成長できる体制をつくる」。北島がこう強調するように、得意の受注型ビジネスに加え、世の中の変化を的確に捉え、生活者のニーズや社会課題の解決法を探索し、主体的に新たな価値を生み出す「第3の創業」の推進が目下最大の挑戦だ。北島自身、月に一度は日本全国の工場などの拠点を訪れて現場社員と対話し、時には鼓舞。「恐れず挑戦しよう」と呼びかける。DNPの挑戦の歴史

主体的に価値生み出す 海外に研究開発拠点

は創業時から連続と続く。1976年10月9日。DNPの前身の1社である秀英舎が創業した。また木版印刷が主流の時代に金属活字による活版印刷を開始。「文明の業を営む」を誓いに掲げ、知識向上に貢献し、文明開化を支えた。戦後はデフレの進行や出版社の連鎖倒産、労働争議などが重なり、一時は経営危機を迎えた。社員の心を一つにするため、1951年には「再建5か年計画」を策定。印刷技術を生かして事業領域の拡大を進め、包装や証券、商業印刷分野に進出し、「第2の創業」を成し遂げた。現在、世界でトップ



北島（左端）が社長就任時から続けている月に一度の「タウンホールミーティング」。現場社員の挑戦を鼓舞する

的に開示することで、受注型のビジネスが中心の裏方役からの変革を進めていく。専務取締役の三宅徹は「営業利益1300億円はあくまで通過点。事業で利益を稼ぎ、持続的に成長する」と強調する。

印刷技術は無限

足元では多様な挑戦が同時進行する。例えばICカードなどの情報セキュリティ関連事業や、昇華型熱転写記録材などのフォトイメージング関連事業では新たな市場を開拓。この注力事業領域の拡大に加え、出版印刷事業の営業・製版・製造機能を統合した新会社「DNP出版プロダクツ」の設立など、事業ポートフォリオ改革が進む。「成長市場に向き合い、未来の新たな強みを見つめる」（常務執行役員の中葉亮太）

9月には多様な研究機関や企業が集うオープンイノベーションは一段と広がる。期待される。顧客からの信頼を積み重ね、共創に挑んだ150年の歴史。「挑戦は決して成功ばかりではなく失敗もある。」

だが、そこから何を学ばないか、そこをどうに変わるかを大膽に試みた企業文化」（専務取締役の中村治）が「印刷技術の無限の可能性」（同杉田一彦）を引き出す。北島は「『非連続の変革』は社員のさらなる挑戦を後押しする言葉だ」と信頼のまなざしを向ける。印刷・情報技術を基盤としたDNPグループ約3万7000人の一人ひとりの挑戦が、これからの「未来のあたりまえ」を作り上げる。（敬称略）

*あすから電機面に掲載します